



ほけんだより 番外編②

令和4年11月15日
長崎市立戸町中学校
保健室



9月に配布した“ほけんだより番外編①”では、“セクシュアリティ”や“自分らしくいることの大切さ”、戸町中図書室にあるLGBT関連の本等についてお知らせしました。今回は、12月7日にある人権集会に向けて長崎県内の状況、LGBT関連で大切にしたいことについて発信していきます。

性的少数者に関する長崎県実施アンケートの主な結果

- ・トランスジェンダー 85名
 - ・非異性愛者 168名
 - ・性別違和感のない異性愛者 435名
- 性的少数者 253名

(アンケート回答者数 688名)

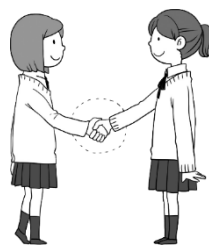


⇒アンケートで答えた人数だけでも全体の約3分の1の人数はいるので、自分たちは気づかないだけで意外と周囲にいることがわかります。

※長崎県における性的少数者の方を取り巻く課題や実態を把握し、今後の施策を推進していくうえでの基礎資料をするため、令和元年6月24日から同年8月10日までの間、長崎県居住者または居住経験者を対象としたWEBアンケート実施結果。

パートナーシップ制度とは??

公式な定義ではありませんが、概ね一方又は双方が性的少数者である2人が、互いをパートナーとし、相互の協力により、継続的な共同生活を行う関係であることを、自治体が証明書を交付、またはそうした内容の宣誓書の受領証を交付するもので、性の多様性を認め合い、誰もが自分らしく生きられる社会を目指すことと目的としています。県内では、長崎市で導入されています。



♡ 大切にしたいこと (☒☑>.<☑)。 ✧♡

☑肯定的な言葉を使う

性自認、性的指向を表現する言葉は多くありますが、場合によっては性的少数者が不快に思う、否定的に捉えてしまう言葉があります。それは性的少数者をネガティブな意味合いで表してきた言葉たちです。

会話の中で「ホモ」「オカマ」「レス」などの言葉を聞いたことはありませんか？これらの言葉は差別的、嘲笑の対象として使われることが多く、それを近くで聞いている当事者は傷つくことがあります。そのため、言葉の意味を知り、肯定的な言葉を使用することが大切です。

○	(差別用語の代表例) 普通の人、ホモ、オカマ、オネエ、レス、オナベ、ニューハーフ等	✖	(肯定的な言葉の代表例) レスビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー等
---	--	---	---

☑カミングアウト



自身の性自認、性的指向について他の人に打ち明けることです。カミングアウトする時はとても勇気がいり、信頼している人にすることが多いです。もしカミングアウトをうけた場合には、あなたを信頼して話してくれている可能性が高いので、肯定的に受け止めることが大切です。同時に、他の人にもカミングアウトしているのか、誰に伝えて良いかを確認し、本人の了承なしに他人に伝えないように注意しましょう。



☑アウティング

他人の性自認や性的指向を本人の許可なく他の人に話すことです。直接口頭で話す以外にも、SNSなど不特定多数の人に情報を流す行為もアウティングにあたります。仮にアウティングしてしまった本人が善意で行っていたとしても、当事者の意図しないところで個人のセクシュアリティを知られた場合、当事者の方が傷つき、精神的に追い込まれる可能性もあるので、十分注意しましょう。

生徒・保護者の皆さんへ

LGBTに関わらず、人が傷つくと予想できることは言わない、人の個性は否定しないことが大切なのではないでしょうか？「あなたもよくて私もいい！」という考え方は素敵ですよ。

(引用・参考文献)

- ・長崎県 HP「多様な性への理解と対応ハンドブック～ちがいが尊重される長崎県をめざして～」